

文科省の松浦室長が資料 1-1-1(特別部会の設置)を 4 分余で説明した後、池上委員長が配布リストに無い資料の紹介を含め、2 分ほど発言した。

池上委員長:宇宙ステーションについてはですネ、ご案内の通り、今の処チュウタンシカヲモタレ(?)ております。で、今日はお手元にお配り致しました SPACEPORTS¹って言うのはですネ、此れアメリカのフリーフロー(?)エー、ま、フトクテキ(?)なポートの様で御座いますけれど、此処でもですネ、日本はスペース・ステーションを止めるのではないかと云うような書き方がされてりですネエ、まあ、何れに致しましても、宇宙ステーションの議論(?)の中で、日本の占める役割が非常に大きくなると云う事をあの、ま、配慮しながらですネエ、色々議論をして行きたいと思って居ります。で、此の委員会、今も一寸説明が御座いました様に政策提言と云う事ではなく²て、寧ろその、ファクトに基づきましてですネ、一

¹ 此の記事のコピーが配布されたのであるが、著作権法を考慮して、小職の資料集には残さない事にする。「日本の専門家パネルの一人がISS計画の再検討を提言した。云々」と書かれている。このサイトへのアクセスを試みたが、到達できなかった。

² 特別委員が各自提言をしたのでは纏まらないから、「政策提言ではない」と云うのは強(あなが)ち間違いではない。しかし、政策立案に役立つ情報を整理・整頓して川端大臣に提出する必要がある。何しろ宇宙開発委員会は文科大臣の諮問機関なのである。

体どうだったんだ、で、今後どうするんだって云う事を色々議論する会議にしたいと思いますんで、或る意味ではあの、政策決定と直接は関係ない事も自由に議論出来るんだと云う風にご理解を。恐らくあの、其処で出た方針³と云うのは、此れはあの川端大臣に答申をすると云う形を取るんですが、多分あの.....現時点でISS担当の大臣は、フクザツ(?)内閣(?)に依る発言をされて、で、国としてどうですって言う事をデンテ(?)云う事になるのではないかと云う風に。だから、宇宙ステーションについてはですネエ、非常に長かったと云う事で、夫々の方がですネ、或る時点での、あの、私自身もそう云うものがあるんですが、思い込みがある⁴と云うこと。て云う事ですネエ、あの、色々議論をしてく中で、自分の考えを変えると云う事は当然あると云う風に思うんですが、其れを一応前提と致しまして、ダションゾネ(?)夫々のあの、特別委員の方の自己紹介をお願いしたいと思います。ですから、特別委員としてはですネ、未だ、何と云うんですか、その、或る意味での、良いに付け悪いに付け思い込みがあると云う前提でのご紹介で結構で御座います。で、色々議論しててですネ、で、其処で又軌道修正して頂いて結構で御座いますので、そう云う事で、単純に、各委員の自己紹介をお願いしたいと思います。一分以内と云う事になって居りますんで。

³ 「政策提言ではないが方針を出す。」と云う表現は理解し難い。

⁴ 定例会議でも同じ言葉が使われたが、「思い込み」でも、「思い入れ」でも、文脈が整わない。

其の後、初回と云う事で、11分程掛けて特別委員が自己紹介を行った。続けて、今回欠席の特別委員の略歴を池上委員長が説明すると共に此の会議の進め方についての話を8分程掛けて行った。

浅島:あの、私はチュニチ(?)等で、所謂 JEM の最初のころからパイオ(?)して、ようやくまあ、ダイチバリ、チュウバン(?)の方に来ると云うので、非常に深い思いをしてる一人だと思います。第一回はその、向井先生方と IHMLJ-2 の内、イモリの産卵を当時やりました。で、2回目は若田幸一さんの宇宙飛行士の時細胞培養の事を致しまして、宇宙の素晴らしさと云う事と、地球上では出来ない実験の結果を得られた事は、ムニャムニャ。

岸:物質材料研究機構の方の顧問をしている岸です。まあ、宇宙に関しては昔東大の宇宙航空研究所に籍を置いてたと云う事は有るんですが、ま、ISS 関連それから宇宙ステーションに関しては材料やとしては非常に苦労が多い時期だったと云うのが偽らざる実感です。まあ、何か面白い事が出来ればと、何時も期待はして居ります。宜しくお願いします。

鈴木:東京海上日動の技術顧問をしとる鈴木です。今は宇宙保険と言いますか、ロケットだとか人工衛星の保険の技術的なサポートをして居るんですが、ま、元々は私の研究(?)は三菱重工でズッとロケットの開発やっております、ま、それからあの FLEX だとか HIFLEX だとか、其れをまあ一時 JAXA

に招聘されまして、HOPE の設計とかやってたんですけど、まあ、従いまして専門はどっちかって云うと輸送系で、それから又ズッとまあ、無人をやって来てる訳ですけどまあ、HOPE の頃はです、何とか日本でも有人プロジェクトを立ち上げたいと云う、まあ、あの、陰ながらと言いますか、色々努力して来た処ですが、まあ、一つまあ、ステーション其の物につきましては私はあんまり直接絡んだ事は無いんですけども、まああの、やっぱり技術開発と言いますか、国際情勢に於いても是非まあ、日本にも何とか要するに有人に乗り出したいと言いますか、まあ大体これはまあ宇宙をやってる、長い事やってるメンバの悲願的な願望ですネ、ま、そう云う事も踏まえましてですネ、まあ、あの、一つまあ、ステーション、有人宇宙の活動の核ですから、此れをもうテツヤズヨコ(?)に活かして行くのにどうしたら良いかと云う事、で、まあ、利用する事だと私はどちらかと云うとエンジニアの立場から其の辺りの考えを述べさせて頂けたらと思います。

角南:政策研究大学院大学の中で、科学技術政策を担当して居ります角南(すなみ)で御座います。宜しくお願い致します。私、どちらかと云うとアジアの科学技術協力と云う観点で、最初に池上委員長と、何年か前に APRSAF にご一緒させて頂いたのが、まあ、本格的に此の宇宙の製作を考え始めた最初かナと云う風に思っています。であの、そう云った意味では、当にアジアとの科学技術協力と云う大きな枠組みだけではなくて、こうした宇宙政策と云うものが、どう云う風に見られているかと云うのも含めてですネ、色々あの、議論に参

加さして頂ければと思って居ります。今日、実は此の後直ぐカンクーンに行きまして、中川副知事と一緒にニンカノン(?)の海外協力についてシンポジウムって話をする事になっておりますので、一寸途中で失礼させていただきます。又宜しくお願い致します。

中須賀: 東京大学の中須賀と申します。宜しくお願い致します。まあ、宇宙工学全般、教育研究活動やって居りますけれども、最近では超小型衛星に力を入れておりまして、50 キロ以下の中小型衛星の...えー、日本が世界一の国になると言う事を目指して、丁度あの、此の四月から最先端研究開発推進(?)プログラムがスタートした処です。で、あのまあ、宇宙ステーション、非常に大事なプロジェクトだと思いますけれども、まあ、昨今、所謂費用対効果って言う観点から、宇宙ステーションの意義が問われていて、先日も前原大臣の有識者会議と云うのに参加致しまして、ま、其の中でも、費用対効果について色々議論されました。唯ですネ、あの、宇宙ステーションは若しかしたら費用対効果って言う観点からだけでは割り切れない処もあって、其れ以外の様々な事項をやっばり知って、其の上でやっばり判断しなきゃいけないんじゃないかと、こう云う機運もありまして、是非あの、此の委員会の中で、どう云う事を考えなきゃいけないのか、そう云うファクタが宇宙ステーションを考える上で大事なのかと云う事で勉強したいと。で、其の上ですネ、議論して行きた云う風に考えて居ります。どうぞ宜しくお願い致します。

西島: 持田製薬の西島和三(かずみ)です。エエト、宇宙ステーシ

ョンにつきましては多分ですネエ、ユーザと云う事で、ま、産業界の人は此の中では少ないと云う事で、そう云う意味ではですね、色々意見交換したいと思うんですけども、私自身は宇宙ステーションを利用すると云う観点に於いては、我が国が持っている最先端の施設で、例えばスプリング 8 とか、スパコンとか、そう云ったものと同じ様なですネ、運用基準の中で、産業界が使う時に、どう云う効果があるかと云う様な処をですネ、皆さんと議論したいと云う風に考えて居ります。

的川: 子ども・宇宙・未来の会って云うNPOをやっている的川と申します。私自身は40年間以上、宇宙科学研究所と云う処でロケットをやったので、そう云う立場から言うと国際宇宙ステーションに関する立場と云うのは比較的中立かなと云う感じがしますが、全体としての考え方は、最初の頃はかなり批判的だったと云う立場がありますが、段々と、JAXAに統一されて色々情が移ったと云う事もありますし、それから、ま、国際的な立場と云うと、あの、かなり抜き差しならない状態に、日本と云う国がなってきたと云う風な事もあって、国際宇宙ステーション其の物に対する姿勢と云うのは、少し私自身は変化してきたのかナと云う感じがして居ります。ただ、世界的に見ると、国際宇宙ステーションが、例えば日本の立場から言えば、日本のメリットかどうかと云う立場じゃなくて、日本と云う国は非常に、国際的な中で大きな貢献をしなければいけない国に成長してますので、そう云う事と、それから単に参加している15カ国の為のステーションではなくて、全世界の発展途上国や、戦禍の国の人達や、そう

云う人達の為にどの様に活用出来るのかと云う風な立場から、日本の方向は考えるべき時期に来ておりますので、5年間延長するかどうかという議論は、そう云う大きな処から見直さなければいけないんじゃないかと云う風な考えを持っています。まあ、特に、今は斯う云う NPO をやっていますので、子供達の為に、世界中の子供達の為に役立てる方法があれば、これは素晴らしい事ですし、そう云う処から色々と頭を捻って行こうかなと云う事を考えてます。是非宜しくお願い致します。

向井: お早う御座います。向井千秋と申します。私は医学とか生理学、そして宇宙科学利用を専門としている宇宙飛行士です。私が宇宙飛行士になった最大の理由は、1980年代に20世紀の科学技術のお陰で、人が地球上で普通に働いている医師や技術者、そして科学者、そう云った人達が宇宙に、人の活動を広げて行ける、そんな素晴らしい時代に私達は生きている。そして又、そう云った事がサポートできる国に、幸運な事に産まれたと云う事に感激して、此の宇宙の道を医学の分野から転換して入って来ました。私はあの、スペース・シャトルはあと3機で退役しますけれども、スペース・シャトルの利用黄金期に科学宇宙飛行士として、色々な諸外国の研究、そう云った事に携わる事が出来たって云うのは、ホントにあの、私としては光栄な事だと思っております。ま、従って、私はあの、此の部会の方で、矢張りあの、日本が今後どうするかって云う事を考える上で、人が宇宙へ自分の行動を広げて行く、そう云った事の理念、こう云った事と後はその、

宇宙ステーションで云うのは宇宙の施設の中で、人が使える唯一の施設ですから、ま、そう云った研究所って云うものがどう云う風な利点があって、又、どう云う風にやれば色々なデメリットを改善して行けるのか、そうすれば多くの人達に共有の研究所として使って行って頂けるのか、そんな風な事を考えて、是非皆様方に異論ご意見を伺いたいナァと云う風に思っています。

安岡: 国立環境研究所の安岡で御座います。私自身はあの、宇宙からの地球環境観測をズッと研究して参りました。最近では JAXA さんそれから環境省さんと共にですネ、GOSAT「いぶき」を打上げまして、現在其のデータ解析の推進を行っております。ISS に関しましては、十数年前になりますが、JEM の暴露部にどう云う地球観測センサを積んだら良いかと云う公募が御座いまして、其の時の公募選考に関わって来たと云う事が御座います。ま、そう云った事も御座いましてですネ、今後その、ISS をどうやって活かして行くかって云う事については大変興味がありますので、是非宜しくお願ひしたいと思ひます。以上です。

山川: 京都大学の山川で御座います。私は、元々宇宙科学研究所、それから JAXA を経て、それで3年前に京都大学に異動しました。で、其の間ずっとロケット、其れから人工衛星の研究開発をして参りました。で、まあ、そう云った観点も含めて議論したいと思ひますけれども、一つは、先程の中須賀委員と同様に前原大臣の有識者会議の委員でもありまして、ま、此の2ヵ月間ズッと、国の宇宙政策と云う観点で議論して

参りましたので、其の観点も含めて話して行ければ良いかなと云う風に思います。で、まあ、宇宙外交とかですネ、安全保障とか、まあそう云った観点、特に国際協力と云う観点から色々議論して行ければ良いかなと思ってます。それと、一つだけ注文なんですけれども、最初に池上部会長の方から「本会は宇宙政策を提言とか、決めるものではなくて、議論をする場だ。」と云う風に仰ったんですけども、もう少し、実際の政策に反映できるような場であると嬉しいと云う風に思います。以上です。

池上委員長:有難う御座います。本日参加頂けなかった、田中委員。エー、田中委員はですネエ、先ずジュウハチ(?)人文社会科学、或いは安全保障の問題のムニャムニャで、色々アドバイスが頂けるのではないかと考えて居ります。それからあの、東京大学の医学系の特任教授の、廣川先生、で、あの、彼はあの、ホントに基礎医学的な処で非常に実績があると云う事で、ですからあの、所謂サブスタンスって云うか、物質と云う様な処であの、データベースに基づいたムニャムニャメンバになって、で、エエト、どうも有難う御座いました。で、夫々、あの、色々、あの、ご経験をされて、ワルザン(?)して、で、エー、あの、有識者会議のメンバだった方も二人参加して居られます。それから所謂月懇ですか、月懇に出席頂いた方もあの、一人ご参加頂いておりますですネ、そう云った様な事を背景にしながら、先程一寸お話が御座いましたが、単純に此処で議論する話ではないと云う事と、それからもう少し先を見た話、恐らくあの、ポストISSについても

仰いました、そう云う事についてもですネエ、あの、要するにやるとすれば、私はスイコウキ(?).....で、エエト、私の方からですネ、最初ワズレ(?)の考え方であの、会議を進めて行きたいとムニャムニャ思うんですが、あの、ISS についてはですネ、先程申しました様に色んな思いが御座いまして、私も一寸言い方悪いんですが、或る意味、此れ不良資産じゃないかと云う事、実は御座いまして、で、あの、唯、過去をズット、歴史を見て行きますとですネ、着実に上手くやって来た。で、特に昨年日本のモジュールが出来たと云う事ですネ、宇宙ステーションに対する見方も随分変わって来た。で、そう云った様な事をベースにですネ、あの、もう一度色々議論したいと云う風に考えております。で、あの、ですから、最終的にですネ、宇宙ステーションをどうするかって事については、此れは内閣府の方で、決定する事になると思うんですが、あの、此処で議論する内容って云うのは技術開発へのインパクトについて議論する事になるだろうと。それからもう一つは地球観測に活用出来るかどうかについて、最近フジョ(?)はグリーン戦略だと言って居りますが、そう云った処で ISS ってものが活かさないかどうかって云う議論。それからもう一つは、産業界へのインパクトっての御座いまして、で、現在国が新経済成長戦略って云う、色々議論していますけれど、そう云う中で宇宙ステーションのプログラムが、まあそう云った様な事が、アー、ドイタ(?)ま、コントリビューション出来るかって事についても議論したいと云う.....それからあの、広い意味での宇宙サービス、放送とかですネ、

GPS になるんですが、まあ、これについては、此处で細かく議論するって云う事ではないんですけど、あの、ガイコツ(?)民事のサービスについてもですネ、若干議論する事になるんじゃないかと。で、一番重要なのはですネ、国民の信頼で御座いまして、これ、国民と敢えて言ってるのは、納税者と云うと子供が入らないんですが、子供を含めた国民の支援が非常に我々にとって重要で御座いましてですネ、で、あの、ま、会議も公開と云う事になってるんですが、是非そう云った視点からもですネ、議論が出来ればと云う風に思ってます。それからあの、やり方なんですけれど、あの、マイク(?)はですネ、ファクトって云うか、事実がどうかって云う事についての確認をして行きたいと思います。で、これはまあ、JAXA の方から色々説明が、JAXA の方に説明をお願いして居りますが、先ずはその、ファクトを見る。で、出来たらファクト・アンドゥ・フィギアって云って居りますが、数字的なものも取り出せれば、あの、其れは非常に我々にとってありがたい話です。で、次にですネ、其れをあの、お聞きになりまして、委員の方の方がですネ、今迄気が付かなかった、そう云う所謂ニュー・ファインディングスってか、そう云った様なものをご指摘頂いて、で、エー、その、こう云った事を議論してたら良いじゃないか等々についてですネ、あの、ご提案を頂きたいんですが。で、最終的にはリコメンデーション、此れを提言て云うのか、或いは結論て云うのか良く分かりませんが、何れにしても、あの、方向性を出して、其の時同時に補足意見をですネ、キチッと書いて行きたい

と云う風に思ってます。それからあの、これは私の方から云うのはあの、言い過ぎなんですけど、多分結論としてですネ、あの、2016 年以降もパートナーシップを、ま、継続しましょうと云う結論が出る可能性がある。で、もう一つは、いや、そうは言っても経済効果等々考えると、或いは日本の財政事情考えますとですネ、撤退した方が良いんじゃないかと云うのが、あります。で、もう一つはですネ、あの、まあ、これまで日本が或る意味では得意とする、相手の出方次第、風見鶏... 良い意味でも、悪い意味でも風見鶏で行くと云うのが、私個人としてはですネ、出来たら其れは止めたいなって云う風に... で、一つは、あの、宇宙関係って云うのはです、やっぱり時間が掛る訳ですから、あの、どうでしょう、お金が... だから、こっち向いても直ぐ... 風も変わるかも知れないんです。そうすと、どうも宇宙開発って云うのは大きなプロジェクトは出来ないんで、出来たら其れは避けたいなって云う風に思っています。で、後は、その他として、エー、ソリ... ナイ(?)オプションがあるかも知れない。例えば NASA のエクスピレーションについては、フレキシブル・タスクと云う、必ずしも良く分からないんですが、そう云った様な事も提案(?)があると云う事で、で、そう云った事についてもですネ、此处で、議論の中へ出て来ればですネ、詰めて行きたいと云う風に考えています。で、何れに致しましてもですネ、概算の予算、どの位掛るかって云う事を出して頂く。ただあの、宇宙開発って云うのはあの、一、予算だけ、少なくとも単年度予算で議論出来る様な事でないと思っております

すネ、其の辺は一寸経済的な立場から、角南先生とかですネエ、ムニャムニャ。それからあの、此の間色々議論して来たんですが、一寸飛んでますがネ、複眼的な視点で云うのがあるみたいで、此れ多分ですネエ、APECのあの、人間が本来人間であるにはどうしたら良いんですかって云う話の中の、あの、一応デハルト(?)に思うんですが、残念ながら日本でですネ、こう云った様な事を中々語ってくれる方がいらっやらない。と云う事で、あの、まあ、若し、日本の哲学者にスルテ(?)な事あったら、...或いは海外にそう云った事、誠実で適切なコメントを出して頂けるような人が居たら、そう云った様な方もヒアリングしたいと思います。それから後は、もう一つ、此れは議論の過程と云う風に思うんですが、あの、幾つかの議論の落とし穴って云うのがある訳で御座いまして、で、其の辺は私共として十分配慮しながら進めて行きたいと思ひます。まあ、あの、何か議事の進行でですネ、若し、こうした方が良いんじゃないかと云うこと...御座いましたら、議事進行って云う形で、私の方にムニャムニャ頂ければですネエ、ムニャムニャながら、ムニャムニャ。...エエト、そう云う様な考えで進めたいと思うんですが、あの、日程についてはですね、一応こんな様な日程でやると云う事について、後でちゃんと紹介したい.....で、あの、最初にですネエ、エー、.....ア、先ずは、配布資料の確認をお願いします。

其の後、事務局の佐藤氏が配布資料の確認を1分程で行い、

池上委員長:資料、実はですネエ、若干脈絡が無い様な形でお配りして御座いまして、あの、是非、今日...ア、ですから全部リファーするって事出来ないと思ひますが、是非あの、夫々の方は資料に目を通して頂きたいと云う風に思ひ居ります。で、何か質問御座いましたら、あの、JAXAなり或いは事務局の方にあの、それなりに対応が、ムニャムニャ。.....それで、最初にですネエ、あの、今、日本がISSについてどうなってるかって云う事についてですネエ、あの、ビデオを使いまして、で、説明をして頂きたいと思ひます。で、このビデオを使うことについてはですネエ、色々賛否両論が中で御座いましてですネエ、で、最終的に、矢張りあの、現在日本あるいはJAXAがISSについて、ま、どう云う事をやって来たかって云う事を知る上ではですネエ、ま、私、そう云う意味で良く出来てるって云う風に思うんで。...で、其れをあの、実際にあの、HTVのプロマネをやっていました虎野さんがですネエ、実は此の前、賞を受けたんですけど、そんな時に使ったあの、割とニュートラルなビデオで御座いますんで、あの、最初一寸、背景を知って頂くと云う点でですネエ、ご紹介させていただきます。

其の後 JAXA の虎野プロマネから HTV の紹介があった。ビデオ映像を含め 15 分程要した。其の後、3 分程の短い質疑応答があった。

浅島:あの、此の技術はもう、素晴らしい事だと思うんですけども、

最後の方にアレなんですけども、その一、若しですネ、今後の事を考えると、単に補給を、つか、上の方に補給するだけではなくて、上にあったものを帰って持って来るかと云う技術ですネエ、つまり、燃焼させないで、宇宙で使った色んなものが、あん中には実は物凄い貴重な資料がある。其れを燃やしてしまうってのは実は勿体無い事で、其れを如何に回収するかと云う事も含めてですネエ、今後やって貰いたいナァと云う風に思ってます。

JAXA 虎野:はい、あの、今、回収してるのは、まあシャトルだとか、ロシアのプログレスとか、あの辺で回収はして居るんですけど、我々日本としてもですネ、そう云う回収技術は持った方が良くと云う事は、まあ、ご指摘の通りだと思ってるので、あの一、今年の4月1日ですネ、回収フキン(?)関係の研究開発を行う室が、エー、理事長命で立ち上りましたので、其処でその、ご指摘の回収技術についてですネ、研究開発を司る所で御座いますので、ま、数年後にはですネ、回収にトライしたいと考えて居る。...

池上委員長:あの、其れについても多分此処ですネエ、議論する事になるんじゃないかと思ってるので、**今の JAXA の方は願望に過ぎない、委員会が出来て何だと、こう云う⁵あの、ムニャムニャ。其れは又此処で議論したいと云う風に思います。此の後ですネエ、今、あくまではあの、バックグラウンド**

を示してって云うところですが、JAXA は少なくとも此処迄のまあ、実績を上げたと云う事をご紹介。で、あの、其の後については色々、其の後あの一、白木理事の方からご説明があると思うんですが、あの、其の前に、此れも背景説明なんです、そもそも、あの、此の部会が組織されたのは、オバマ大統領のですネエ、2月の予算教書、それから4月11日、フロリダであった、ムニャムニャ、バックにある訳で、で、アメリカの動向がどうなってるかって事についてですネエ、金子補佐の方から説明して貰いたいと思うんですが、其の前に、先程ご覧になったのは3月11日のですネエ、其の時にあの、NASA のあの一、ISS 担当のゲッチンマイヤと云う人が居りますですネエ、どうもNASAの方はですネエ、あの、上手く行くとは思ってなかったんじゃないかと、私のヨソ(?)ですネエ、で、そもそも、あの、**ロケットもアレもテストフライトですネエ、それからHTVもデモンストレーションであって、失敗したとしてもしょうがないじゃないか**と云う様な雰囲気であって**た⁶ん**ですが、其れがグredル(?)行ったと云う事で、要するに NASA の方がまあ、驚いたって云うような感じはしますですネ。恐らく、そう云った様なもの背景にですネエ、あの、オバマ・ビジョンが、まあ、作られてるんじゃないかと。ま、其の辺についてあの、要点を金子補佐...

⁵ 「JAXA 内に研究の為の組織を編成した」処までで止め置けば良かったとは言うものの、大人気ない指摘ではないだろうか。

⁶ スーパー301 の適用を危惧して、此の様に命名している事をご存知ないのか。

此処で金子補佐が資料1-1-2(米国の動向)を7分弱で説明し、その後、20分を超える質疑応答があった。

西島: ジョウタン(?)と云う其のキューティ(?)ですとか、2015年迄国際宇宙ステーション計画って云うのがあったと思うんですけども、其の計画に参加する時にネ、2015年以降については斯う云う形で進む事を取りきめると云う様なものが、例えば一国でも続けられると言った時には続けるとか、例えばオトナシ(?)三分の二の賛成にですネエ、あの、企業的感觉からすると、企業コンソーシアムを作る時には結構そう云うのがあるんですヨネ。で、途中から例えば、入りたい時は、建設費の15分の一を負担するとかですネ。まあ、其処、国の問題ですから、そう云うものはキッチリしたものが有るのか、或いは其の時の情勢に応じて、当に今斯う云うので議論する事が必要なのかって云う、其の辺の処の分について、お伺いしたい。

JAXA 白木: じゃあ、私の方から説明させていただきます。此のステーション計画を推進するに当たって、IGAと云う政府間協定と、MOUと伊NASAと日本政府との間の協定が結ばれて居ります。此れについては次の議題で説明させていただきますが、其処には何年に止めると云う事は全く書いてなくてですネ、ステーションについては何時止めると云う、そう云うものがあつた訳ではないと。ただ、此の最初の資料に1.(1)に御座います様に、2004年のブッシュ・ビジョンの時に出来た、此処に書いてない事で御座いますが、ステーションを2010年

迄に完成させて、シャトルを退役させると云う発表が御座いました。其れと併せてNASAの予算の中に、ステーション関連の予算がプロファイルとして2015年位までしか入ってなくてですネエ、で、其処がアメリカとしての、2015年までは取敢えず進めようとする事だったと云う風に理解して居ります。従いまして、其の2016年以降についてはですネエ、実際に今後、其の後協議すると云う事で、特に「15年で、皆さん終わりですヨ。」って云う事ではなかったと云う理解です。ただ、あの、こう云う国際共同でやって居りますので、或る、例えば国内の予算事情で或る国がウィズドローしたいと云う様な事が出た場合はそう云う、人が集まって協議をするって云う事になっておりまして、抜ける場合の協議は定められておりませんが、2015と云うデッドラインは無いと。

西島: と云う事は、抜ける時の協議ですけれども、どう云う...抜けるならばどう云う条件が揃った時に抜けるのか、入る時はどう云う風に条件が集まった(?)時に入るんだと云う事の、キッチリした取り決めは無いと云う考えですか。

JAXA 白木: あの、抜ける場合は、其の当然国の事情が御座いますから、そう云ったものを背景にして協議をすると云う事ですから、...

池上委員長: あの、此れについて又後ですネエ、あの、白木理事、説明の処にも協定って一体どうなのっての、説明が御座いますので、其処で議論することします。...他に、何か簡単な質問は...あ、どうぞ。

岸: 此れあの一、何をやるかって、色々書いてあるんですけど、

バックデータで、どうしてこれをやる、どうして有人か、火星かとかと云う事を、詳しく記した様なものって云うのは、別個に有るんですか。これを増やすって云うのは何を増やすのかとか、何も分からないですヨネ。ユルシイショウジノウチニ(?) 沢山送れ、何の為ですか。こう云うのは、あの、これは要約だから、非常に沢山ムニャムニャ

金子補佐: はい、あの一、例えばですネ、此処でも一応ご紹介申し上げますが、あの一、オーガスティン・レポートでは相当あの一、何度か議論するに当たって、色々なデータ、ファクト、数字も含めたファクトって云うのを提出、議論している状況で御座います。で、又、更に雇用についても、具体的に目標としてですネ、その、2月なり4月なりに出されたものについては、目標として定めている部分がありまして、其れについて何処迄どう云う計画でって云うのは、あの、分かってる部分もあるし分かんないって云う部分が、あの、正直なところで御座いますので、一寸整理致しまして、又あの一、補足するって云うのは可能で御座います。

池上委員長: あ、確かに、今仰られた様に、遠い目標の話はですネエ、ヒューマン・スペース・フライトをどうするかって云う事で、オーガスティン会議、此れは何か大統領が代わりますと、大きなプロジェクトとして3ヶ月間に答を出す様になってやって、ルーチン的な作業⁷ムニャムニャ。此処で議論して、ムニ

⁷ 一回目撃しただけでルーチン的な作業と言い切る事が出来る様だ。大胆過ぎる推論だと思う。

ャムニャ。で、其れはかなり具体的なもので、あと、其の前にもあの、MITが評価のレポートを出してる。アメリカの場合ですと、一般的なもので、非常に確りしたものが⁸あって、

誰か: 聞き取れない。

池上委員長: 有りますヨネエ。それで、あの、其の辺は日本全体の問題かもしれませんが.....ないって云う。一応それなりに。ただ、やっぱり、雇用対策と云う事が非常に重要な話でありまして、で、穿った見方をすると彼は宇宙を使って雇用を増やすって云う、雇用問題をですネ、良い方向に持ってこうと云う様な感じもある⁹なって云う風に、ムニャムニャ。で、

⁸ 此れは日本人とアメリカ人の意思決定の概念の相違に依る処が大きい。日本人は先に結論を想定して議論を始める傾向が強く、アメリカ人は調査結果の分析に関する議論を行った後で結論を探り出す傾向が強い。又、其れを支える調査分野の人材も、日本より米国の方が豊富である。余談ではあるが、詳細設計に入る迄の作業が、完成品の善し悪しの決定に支配的である事は、多くの方が実感を以て体験されている事だと思う。又、予備設計の中でも、自らの設計の自由度を絞って行く、概念設計段階の検討、即ち早い段階の作業の善し悪しが肝要である。調査に於いても全く同様に、良い調査要求を作ると良い調査結果が得られる。日本より米国の方が良い調査要求を作成する能力を育てた人間が多い様に感じられる。

⁹ 確り分析しなければ分からないが、多分大きな誤解だと思う。雇用対策が目的であれば、宇宙以外の分野に投資した方が効果は大きいと思われる。経産省が纏めて居る産業連関を用いれば、其れがはっきり出て来る筈である。

其の辺は又後で色々ですネ、ご議論ムニヤムニヤ。日本の将来どうするかと云う中で、色々考え纏めて、今、言われて居る様な、その一、エビデンスがどうだって云うムニヤムニヤ。それから又、後程お聞きしたいムニヤムニヤ。他に...あ、どうぞ。

安岡:1-1-2の1頁目の(3)にあの、まあ、60億追加と云う記事が御座いまして、そして其の下にですネ、国際宇宙ステーションの運用を少なくとも延長と、それから有人宇宙活動を見据えた低コストの大型輸送ロケットと云うのがあって、其の下に機変動や地球観測に関する事と云う事で御座いますが、此の一番下の事は上と同じコンテキストの中の話なんでしょうか。其の、エー、国際宇宙ステーションの運用の継続に関係した形で言われてる話でしょうか、それとも全然独立の話でしょうか。

金子補佐:エエト、基本的には独立のファン(?)候補として、立てて御座います。

安岡:はい、どうも。

鈴木:あの、オバマ大統領の発表した政策って云うのは、何か随分やっぱりの、もめてると申しますか、色んな議論が行われてると思います。其れはその一、何時までと云うか、その、或る時に決着が着くと思うんですが、其の辺り、その、アメリカの方針として確定すると云う事なんでしょうか。

金子補佐:其処はあの一、色々な見方があるかと思えますけど、あの、事実関係としては予算教書が出されて、未だ議会を通過していない、未だ議会の議論の途中であると云うのが事

実関係だと思います。で、何時までに此の議会が通るかって云うのは、まあ、ご指摘の通り、色々な意見が御座いまして、必ずしも斯う云った方向で纏めるって云うのはあの一、確定的な見方ではないんだろーと思います。で、ご案内の通りあの、アメリカの予算てのは、かなり...エー...暫定予算で云うか、年度に入ってですネ、あの、暫定的に措置して、実際に議会を通るのは3カ月遅れとかですネエ、数カ月遅れってのが通例で御座いますので、直近の予算についても、確かあの、私の記憶では10月からが予算会計年度で御座いますが、去年は12月末にですネエ、最終的に議会を通ったと云う風な事で御座いますので、其処については尚色々な観測のムニヤムニヤ。

池上委員長:あの、**予算制度のどうも違いはある様で、向うは本能的には、此れ、フランスもそうですし、ヨーロッパは大体そうなんですが、4年乃至5年を一応サイン(?)して、あの、ムニヤムニヤ。其れに対して議会は必ずしも了解しないムニヤムニヤ。特にアメリカの場合大統領制度ですから、議会の了解無くても予算執行は出来る¹⁰んですヨネ。だから、一応新**

¹⁰ 発言の影響力の大きな人が、此の様な曖昧な発言をしてはならないと思う。少なくとも、アメリカにはオーソライゼーションとアプロプリエーションと云う二つの予算審議があり、オーソライゼーションでは全予算を対象にはしないが、5年計画を審議・選定して長期計画を立て易い様に配慮している。此処で通過しても、毎年単年度の予算を審議するアプロプリエーションを通過しなければならない。後者を暫定執行する事が出来ると云う事だろう。

しいものは積みこめないって云う事になって入る様なんですが、あの、其の様な事は結局、最終的にどう考え...

鈴木:分かりました。あの、いや、結局そうすると、その一、アメリカが斯うだから斯うと云う考え方じゃなくて、やっぱり日本は斯うするべきだって云う事でやらなきゃいかん¹¹だろうって事を確認したんですけど。

JAXA白木:あの、まあ、一寸補足させていただきますと、これからアメリカ国内での議会での審議が、イスタラン(?)のまあ、5月迄に向けて行われるってのを聞いておりますが、まあ、ステーションに関しては議会も含めてサポートタイプだと聞いております。問題はあの、月探査を止めたコンステレーションをですネ、其の儘止めるのかどうかと云うのだとか、其の辺りが議論の焦点になるんじゃないかと云う風に聞いております。

池上委員長:あ、どうぞ。

浅島:あの、2010年迄にその、シャトルがまあ一応飛ばないとなった時に、これを延したって事は、日本のその、イワインジ(?)の宇宙計画に対す居る影響っての、どう云う事なんで

¹¹ 米国政府がどんな背景を持って、どんな結論に達したのかと云う事は、日本の意思決定に対して無関係ではないものの、日本の背景に基づいて決定を行うのである。背景の異なる議論の結果だけに左右される様であってはならないと思う。議論の経過の重要性より、結果の重要性に目が向き易い、日本人の議論の傾向が窺われる発言である。勿論、これは「鈴木委員の発言の中に感じられる。」と言っているのではなく、米国政府の動向を伺って物を考える事が多いと云う一般的な動向を指摘している。

すか。

JAXA白木:ステーション運用に関しましては、今迄シャトルが貨物と人間を運んでおった訳です。其れが、あと残り3回で一応まあ、リタイアする事になりました。で、其の後、ステーション運用に関しては、当面はロシアのソユーズ宇宙船で人間を運ぶ事にして居ります。で、貨物につきましては、矢張りNASAがロシアから調達するプログレスを以てだとか、或いはあの、後程私の方から説明させていただきますけども、日本だとかヨーロッパの、日本のHTV或いはヨーロッパのATVで貨物を運ぶ事を期待して居ります。併せて、民間企業にもですネ工、アメリカが貨物船なりを開発させると云う、現在其の研究を進めておりまして、2011年には初号機が飛ぶと、特にアメリカの民間企業の者が飛ぶと言って居りまして、ま、其れはあの、どの程度現実的かと云う様な議論がありますけれども、まあ、そう云う意味でのステーション運用に関しては、当面インパクトは無いと云う風に見て居ります。

池上委員長:他に何か...ア、どうぞ、どうぞ。

中須賀:済みませんあの、まあ、アメリカが延長したって云うのは、まあ或る意味驚き、ホントにそうかなってのもありますけど、例えば200年の頭位にあの、要するに宇宙ステーション計画やるかどうかって云う事で投票があって、一票差で確か継続と云う事になったんですけどヨネ工。そう云う事で、アメリカの国内でも随分やるやらないの議論があったと思うんですけども、此処に来て延長したと云う事は、さっき雇用対策と仰いましたけれども、雇用対策以外に宇宙ステーションをや

る事によって何等かの非常に強力なメリットが得られると云う事、考えた結果なのか、或いは単なる雇用対策なのか、此の辺、アメリカがどう考えてるのかってのは、大変我々考える上でも大事だ¹²と思うんですけど、其の辺についての情報は如何でしょう。

金子補佐: 其処についても、あのまあ、ポイントだけ書いているのですが、エエト、当に最終的なレポートに此の様に書いていて、即ち此処と云うのは 1 枚目の再検討委員会の報告のポイントの処なんですけど、延長するって事はあの、アメリカ、まあ当然のことながら国際パートナーにとって、其の投資に見合う意義が... 云う風に書いて居るけれども、具体的な意義と云うのはですネ、あの、色々書いて御座いますが、科学的な意義とか、或いは国際関係上の意義とか、非常にそう云う色々な副次的... あの一、相互的な意義と云う風にあの、レポートでは読み取れる¹³かと思います。

¹² 当に同感である。多分、最も大事な要素は、コンステレーション計画の中止ではないかと感じている。火星有人活動を目標にする事は時期尚早であり、もっと現実的な目標に掛け替える事で、活動全体を減速して国家財政負担を軽減し、それでも尚遠い将来の火星有人活動に向かう道を閉ざさないと言う選択ではないかと想像する。

¹³ 1 頁「1. 背景・経緯」の(2)の後に「.....ポイント」とあるが、「国際宇宙ステーション(ISS)計画の2015年迄の運用期間を延長する事は、米国及びパートナー双方にとってその投資に見合う意義深い成果が期待される。」とだけ書かれている。

中須賀: 其の辺の情報は、此の委員会で色々...

池上委員長: いえ、あの、或いは皆さんのところで情報が入ってれば、其れをプレゼンに¹⁴ムニャムニャ。で、今見たいの... 私が色々資料を見ててですネ、気にな... 気になったって言うかハッと思ったのはですネ、あの、エエト、要するに、大統領がNASAに対して「ISSをナショナル・ラボとして使え。」と云ったって書いてある訳ですネエ。処で、今迄ナショナル・ラボとしてISSを使うって云う発想は余り無くて、或る意味人体実験にとって使い方があったんじゃないかと。ですから、新しい研究... 要するに研究室としてチャンと使えて云う事は、多分新しいメッセージじゃないかと思うんですヨネ。ですから多分具体的... いや、アメリカに対してですヨ、アメリカの連中に対して、ISSをそのあの、ナショナル・ラボとして使う、此れはどう云う事かって言うと、多分あの、研究へのファンディングに、宇宙ステーションを使った研究ってものが、こう、上がって来た場合に其れをまあ支援すると。云う風な、新しい状況をどうも考えているかと..... で、今迄と一寸アメリカの中での状況が変わって来るんじゃないかと。ですから、アメリカの研究が勿論、ラボを使うって事一所懸命考えて来たとする、日本と競争んなる訳ですネ。其れはタイチ(?) 此処で我々は議論して行かなきゃいけないとムニャムニャ。

青江: 今、中須賀さんが仰った事を、ホントに知りたいんですネ?

¹⁴ 金子補佐の説明によれば、前注13で示した様に結論だけしか書かれておらず、其の裏付情報がオーガスティン・レポートにあると云う事の様であるから、先ずは其れを報告すべきだろう。

ですけれども、此の辺の人達はオフィシャルに「斯うです」と云うには、アメリカのフショッカイ(?)にある者が何考えてるかなんて云う事は多分凡そ云わないんです。(会場大笑い)ですから、その一、どちらかと云うとホントにまあ、イッシュゴハクセツ(?)ですネ、アメリカのウチオカイク(?)何が動いとるのか、此れは、皆さんのこう、情報(?)読みたいとボウ(?)の中から、出して頂いて、まあ、どう見ると云うのは、多分イキウゲキトレ(?)の、所謂我々が此の、トリ(?)の議論をやる上でも、大きな参考資料。

池上委員長:ムニャムニャ。...はい。

岸:私もあの、同じ事を繰り返す事になるんですけどネエ、最も大事な**安全保障¹⁵**の話ってのは、此れは殆ど表に出て無いんですけれども、其処の...

池上委員長:アメリカの話?

岸:アメリカの事とか、此のオバマムニャムニャ。

松浦室長:此方のまあ、アメリカ等での新聞報道とかですけれども、あの、当然、ま、此のステーション計画中止してですネ、で、まあ、又新しくビジョン出して行く可能性もあり、ステーションのまあ、延長、まあ色々な要素があるんですが、南部の、特に、州とかですネエ、あの、色々な厳しい意見なんかは、当然まあ、雇用もあるんですが、それだけじゃなくて、宇宙ステーションとか、今後のその新しい宇宙探査で、ま、開発の

¹⁵ 此の後、岸委員の発言が無いので、どんな意味合いで「安全保障」の言葉を用いたのか分からない。多くの人は軍事非軍事の境界を意味して発言する傾向があるので、注意が必要である。

技術的バックグラウンドとか、そう云ったものは**全部安全保障とですネ、表裏一体な面¹⁶**もあって、そう云う意味では例えばその、アレス1みたいなもの中止になるとですネエ、エエト、又其れがケツパク(?)して来るだろうって云うのはですネエ、やっぱり其処はあの、アメリカのそのアーセナル、エエトまあ、ダイブイツウ(?)みたいな面もやっぱり其の辺なると云う様なものも背景として見掛けられる、**新聞報道等では見かけるんで、そう云った面は多分考慮に入れて、色々な議論が行われてるんじゃないか¹⁷**ナと云う風にムニャムニャ。

池上委員長:で、此れ、新聞報道ですとネ、あの所謂国防と云う見地ではどうも余り考えていない様に、**寧ろ心配してますのは、アメリカの宇宙飛行士は地球に戻って来るんだと、此れはもうロシアに頼らざるを得ない。エー、まあ、アメリカの会計**

¹⁶ 此れでは岸委員の「安全保障」と云う発言に対して、軍民共用技術と云う側面しか考えていない。そもそも軍事組織は、軍事行動を最も効果的に行う事を常々考えているので、世の中にある最も有効な技術を常に使おうとするし、世の中に無ければ自ら研究開発を行うのである。宇宙で利用される技術が軍民共用技術であるか否かは、「宇宙活動に於ける安全保障」の議論のほんの一部でしかない。当該プロジェクトに対する決断が、自国の安全を長期的に保つ上で、どんな効果を産むかを考える事だろう。

¹⁷ 新聞に発表される情報は誤りと言い切れないがあくまで推測である。此の手の情報は管理されており、クラス分けされて秘密保全の手が打たれている。更に米国では、年が経つと秘密保全のクラスが下げられたり、クラスに応じた秘密保全の年限が定められており、何時かは公開されるのである。

検査院なんかの言い方をするとですネエ、フジア(?)問題
アンタ(?)じゃないかと。で、ロシアやジャン(?)で人質に
して取られる¹⁸んではないかと云う様な議論が中にはある。
で、矢張り自ら人を運ぶ様のもの。或いは其の中に HTV
等々のエクステンションが含まれる。……ヨ、宜しゅう御座い
ますでしょうか。ムニャムニャ。

向井: 済みません、あの、此の予算仕分けの中の処で、宇宙科学
と宇宙探査って云う風に二つあるんですけれども、所謂こう、
人が宇宙に行く事をサポートしている様な、医学ですとか生理
学ですとか、或いは人文科学的な利用だとか、そう云った
処は何処の部署で持ってるんでしょうか。

金子補佐: エエトですネ、此処はあの一、基本的にはですネ、宇
宙医学の様なものは ISS の運用の中ですネ、ヒューマン・リ
サーチと云う項目が多分(?)御座いまして、其方の計上さ
れて御座います。所謂宇宙探査と云うのはあの一、基本的
には無人探査が、何て言うんですかね、無人探査に係るも
ので御座います。なので即ち、将来の有人探査に関わる宇

¹⁸ 恰も米国の会計検査院の発言だと誤解されかねない。若し此
の様な事が起こると、米国人宇宙飛行士はアーリントン墓地に祀
られ、ロシアと云う国は地球上から消え去る事になりかねない。米
国の公人が此の様な発言をすると思う日本人がどの位居るのだ
ろうか。ソ連が世界初の人工衛星を成功させ、夕暮れに其れが
日に照らされて肉眼で見え、其れを見上げた米国市民が「あそこ
から爆弾を落とされたらどうするんだ。」と大騒ぎしたと云う話を聞
いた。米国でも、私人の発言ならば考えられない事もない。

宙医学の様なものについては宇宙運用の方に計上¹⁹されて。
ただ、あの、色々予算品目もですネ、あの、変更等とう御座
いますので、此のやりくりって云うのは一応有るかと思って居
ります。

向井: すいません、そうしますとあの、宇宙科学はまああの、ロボ
ティック・エクスプロレーションで、そう云う部分になるのかと
思うんですが、あと此の宇宙科学って言うと、コズミック・サイ
エンスって云う意味ですか?

金子補佐: はい、基本的には其の様に理解して居ります。

向井: そうすと、あの、最悪...

井上: 宇宙科学は、あの、無人の所謂太陽系探査って云うものは
宇宙科学に入って来て、宇宙探査と云うのは矢張り有人が
関係している様な部分がメインになってると思います。

JAXA 白木: 其の通りだと思いますが。サイエンスを見て頂くと分
かります様に、地球サイエンスとか気候変動だとか、惑星サイ
エンスと云う、まあ、どちらかと云うと無人をベースにした地
球科学、或いは天体科学と云う処の分野だと。それから宇宙
探査は有人を念頭に置いた探査と云う風に考えています。

向井: 一寸しつこくて申し訳ないですが、宇宙ステーションの利用
と云うものを、運用と云う点から少し切り離して考えて行く²⁰為

¹⁹ 此の説明は誤りである。後で井上委員が一部を訂正する。金
子補佐もご存知の筈で、どう云う訳か変に思い込んだ様である。

²⁰ 運用すると云う事自体がミッションではあるものの、其の成果だ
けで国民に訴えられないと考え、ISS の利用促進を企図したオバ
マ大統領のナショナル・ラボとの発言だろう。切離し賛成。

には、そう云った利用、科学利用と云うものが、何処の予算内訳にアメリカが入っていて、日本はどう云う内訳の中で考えているのかって云う考え方が分からないと、幾らお金が使えて、何が出来るかと。矢張り出て来るお金によって違うんで、で、私あの、此れ日本語にしてしまうと斯うなんです、コズミック・サイエンスとか、スペース・イン・サイエンスって言っているものと、サイエンス・イン・スペース、宇宙と云うものの中、此れ地球上も宇宙ですネ、極端な事言うと宇宙ですが、こう云うものの中を使って行かうサイエンスって云うものが、何処に位置付けられるかで、やっぱり立ち位置が違ってくると思うので、其処ら辺の情報が分かりましたら、すいません、お願い致します。

金子補佐:其の点はこの、整理して、はいあの、次回以降...

池上委員長:あの、ただ矢張りあの、斯う云う事はですネ、私もその、内訳は非常に日本と違うナアと。ですから、所謂サイエンスとエクスポレーションの話とそれから ISS の話は切離さないとムニャムニャ。アメリカなんかの場合ですと、金が無いとジューサンニチノキイマショウ(?)って話、60 テーマを 40 テーマにする。あ、でも、アメリカは斯う云う様なベジツ(?)でやってると云う風に、ムニャムニャ違うナと。ミッテイショ(?)特に宇宙ステーション、サンタゲイツ(?)って一体どこから金が出て来る。ジューブハンシタイッタ(?)あの、斯う云う風になる...何かある?

松浦室長:まあ、

池上委員長:あの、サントラック(?)組織横断的な支援とかです

ネ、かなり現実的な項目が予算内訳にムニャムニャ。...マタセツワ(?)此処に戻るとは思いますんで、エー、一応此処は...概略の説明は終わったと云う事で、ムニャムニャ。それから、次にですネエ、あの、そう云う事で今の様なバックグラウンドがありまして、まあ、我々部会が、あの、ムニャムニャ。で、次ですネエ、あの、どう云う事を議論するかって云う事について、あの、事務局の方の

松浦室長:アッ。

池上委員長:...案を...あのムニャムニャ。1-2-1 で説明して下さい。

松浦室長:あの、ステーションの概要は良いですか?

池上委員長:ステーション概要? 良いです。...あの、1-2-1 をご覧になって頂きたいんですけど。

(...と云う事で、1-3-1 の説明を飛ばして、議題 2 に入ってしまった。)